

第7回竹原市立学校適正配置懇話会 議事録

午後2時00分開会

1 日 時 令和4年2月4日（金）

午後2時40分閉会

2 場 所 竹原市役所 3階 第1・2委員会室

3 議事

- (1) 答申（案）について
- (2) 教育長への答申について
- (3) その他

○山口係長 本日は、お忙しい中、第7回竹原市立学校適正配置懇話会に御出席いただき、ありがとうございます。前回同様、発言する際には、マイクを使用させていただきます。それでは、会議を始める前に資料の確認をさせていただきます。郵送でお送りしたものが、①本日の次第、②答申（案）、③第6回懇話会での委員意見と対応、本日机の上に置いておりますのが、④配席表、⑤懇話会開催状況、⑥修正した答申（案）、⑦修正した概要（案）、⑧第6回懇話会での各委員意見と対応（差し替え）、⑨第6回議事録となっております。資料は以上になりますが、資料がない方は、おられませんか。今回の懇話会では、議事（2）から公開としております。議事（2）からは報道機関が入りますので、あらかじめ御了承いただければと思います。それでは、ここからの進行は、小原会長にお願いしたいと思います。小原会長、よろしく申し上げます。

○小原会長 ただいまから、第7回竹原市立学校適正配置懇話会を開催いたします。まず、始めに議事（1）「答申（案）について」です。前回懇話会で答申（案）を提示させていただき、委員の皆様から様々な意見をいただきました。その意見を可能な限り、盛り込んだ答申（案）を委員の皆様へ1月中旬旬に送り、最終確認をしていただいたところです。その中で〇〇委員と〇〇委員から指摘がありましたので、答申（案）を修正いたしました。事務

局から修正内容について、説明をお願いします。

○山口係長

答申（案）について、説明いたします。まず、〇〇委員の指摘を受けて修正した主なものは、4ページの学校施設の老朽化の項目です。2行目に「本市財政状況は厳しく、大規模改修や建て替えは難しい。」と表現しておりましたが、このことは事務局からは説明しましたが、懇話会としては、議論していないので違和感を感じるという指摘がございましたので、その文言を削除しております。また、〇〇委員からは第6回懇話会での各委員意見と対応の⑧と⑩の修正してほしいという指摘がありましたので、下線部のとおり修正しております。続いて、〇〇委員には字句の訂正等を中心に、指摘をいただきました。主なものは、2ページ以降の「改訂学習指導要領」という表現について、令和3年度からは中学校においても学習指導要領が全面実施になっているので、「改訂」の文字を取ったらどうかという指摘で、会長と相談し、削除させていただいております。合わせて概要版の中央の「学習指導要領等が目指す資質・能力と学び」の箇所も改訂を削除しておりますので、御確認ください。また、もう一点、13ページ図2の魅力ある教育活動を創出する「(仮称)竹原学園」構想図ですが、この図については、例示のようなものなので図1と同様に「構想図」でなく、「イメージ図」にしてはどうかという指摘がありましたので、そのように修正しております。最後に事務局で修正したところがあります。10ページの表3の忠海学園の取組事例で「ハワイ州イリマ中学校とのオンライン交流」を挙げておりましたが、この表は地域との交流の取組事例となりますので、そこにありますように「地元企業による卒業生を対象とした記念講演」に変えております。以上が、答申（案）の修正の説明になります。よろしく願いいたします。

○小原会長

この後、多数決を取って採決になりますけれども、現時点のものについて、さらに御質問、御意見等ありましたら、お願いします。

○小原会長

それでは、懇話会として答申するにあたり、この答申（案）で良いか懇

話会設置要綱の第6条第4項に基づき、多数決を取りたいと思います。この答申（案）に賛成の委員は挙手をお願いします。

（全員挙手）

○小原会長 全員賛成で、賛成が出席委員の過半数に達しましたので、この答申（案）で決定とさせていただきます。（案）の文字を削除してください。

○小原会長 代表して、私から答申を教育長に提出します。その際に答申の1ページ目については、公式なものですので読ませていただきます。それと同時に異例かもしれませんが、これはかなり委員の皆様方の思いを練りに練って込めて答申するものですから、私が書きました「おわりに—今後の「竹原市教育」への期待—」というところも読ませていただいて、その上で教育長にお渡ししたいと思います。御了承ください。

令和4年2月4日、竹原市教育委員会教育長 高田 英弘様、竹原市立学校適正配置懇話会会長 小原 友行。将来を見据えた市立学校の適正な在り方等について（答申）、竹原市立学校適正配置懇話会（以下「本会」という。）は、令和3年2月5日付けで諮問のあった、「（1）市立学校の適正配置及びブロック制の再編について」、「（2）市立学校の統合再編について」、「（3）市立学校の統合再編の時期について」、「（4）小学校・義務教育学校前期課程学校選択制の導入の是非について」、別紙のとおり答申します。答申内容は膨大なものですので、読むことは省略させていただいて、私達委員の思いを込めて書いた「おわりに」を読ませていただきたいと思います。「おわりに—今後の「竹原市教育」への期待—」本会のはじまりにあたり、市内のいくつかの小学校や義務教育学校を見学し、竹原市教育委員会が進めているコミュニティ・スクールの実態と、その中で育っている児童生徒の姿を見ることができたことは、本答申のデザインを構築するうえで大きな意味があった。また、時間が限られている中で、保護者へのアンケート調査を行い、学校教育へのニーズや期待を具体的に把握することができたことも重要であった。そして何よりも重視したことは、本会の各委員

一人一人の思いや考えをじっくりと発言していただく機会をもったことである。母校の存続問題と孫世代の子供たちの未来への責任という両面を踏まえながら、伝統を継承しつついかに未来を向いていくのか、熟慮のうえ発言されていたことが心に残る。また議論が、諮問された義務教育段階の検討に止まらず、就学前から高等学校まで見通した本市教育全体の在り方にまで及ぶことが多かったことも印象に残る。このように、本会では児童生徒の顔を思い浮かべながら、また保護者や地域住民の願いや期待に寄り添いながら、検討を進めてきた。その結果としてまとめられたのが、本答申である。本市学校教育を通じて、児童生徒一人一人が、夢を持ち故郷を大切にしながら未来社会で輝いていけるように、本会は中期的、長期的視点からも市立学校の適正な在り方を議論してきた。その結果として、市立学校全体を、竹原市らしい学校運営協議会を中核とする義務教育学校「(仮称)竹原学園」へと段階的に統合再編していき、「地域に根ざした9年間の系統性のある小中一貫の教育」や「地域の教育力を活かした特色ある教育」を推進していくことが必要であると結論づけた。竹原市教育委員会におかれては、本答申の趣旨を踏まえつつ、本市学校教育への深い思いと願いを抱く保護者、地域住民の理解をよく得ながら、適正かつ速やかな通学区域の調整や、急速な変化にも対応する統合再編計画のデザインがなされること、そして各学校運営協議会における連携・協働が進み、ブロック制に基づく魅力ある義務教育学校づくりについての具体的な構想や計画が立てられることを強く期待する。また統合再編の説明会等の際には、地域住民の心に寄り添った丁寧な対応に配慮することも要望したい。

○高田教育長

それでは私から一言ご挨拶申し上げます。昨日は節分で本日は二十四節気の立春ということで、暦の上での春を迎えた週となりました。子供の頃、豆まきをする時分には日が少し長くなったなと思っていたことを思い出します。さて、この度は、小原友行様、胤森裕暢様を始め14名の委員の皆様におかれましては、大変御多忙な中にもかかわらず、竹原市立学校適

正配置懇話会において、竹原市立学校の適正配置等について、熱心に御議論していただき、誠にありがとうございます。そして、コロナ禍の中、第1回目の懇話会から丁度1年経った本日、第7回懇話会が開催されますことに感謝しているところでございます。懇話会では、単なる学校の統合再編の議論ではなく、竹原市で将来どのような教育を進めていくのか、子供たちが社会の担い手となるために、どのような資質・能力を身に付けていくのかという視点で、議論を進めていただいたと聞いております。先ほど、小原会長より適正配置懇話会委員の皆様の本市学校教育や子供たちを思う気持ちを総括した答申をいただいたところですが、本市学校教育を預かるものとして、大変身の引き締まる思いであります。また、市内全校で実施した保護者アンケートは、回収率約97%と学校教育に対する高い関心が示され、我が子を思う保護者の熱い気持ちに触れるとともに、今後の学校教育のあり方を考える上で非常に有益な基礎資料となると考えております。竹原市の子供たちに望む教育として答申や保護者アンケートに共通して見られたことは、きめ細やかな個別の指導をすることや協働的な学びの充実を通じて、多様な学力の向上を図ることであると認識しております。これらのことは、学習指導要領で求める教育や本市総合計画や教育大綱で目指す教育とも合致しており、今後の学校教育を進めていく上で非常に大きな推進力となると確信しております。今後予測される人口減少、児童生徒数減少に伴う地域の衰退を見据えると、これまで本市で進めてきたコミュニティ・スクールを、答申の中で提言された、学校が地域を支えるとともに、学校を中心とした地域ネットワークにより地域を支える新たなシステム「竹原版コミュニティ・スクールに基づく義務教育学校」に発展的に進化させていくことが求められていると感じているところです。今後はここにおられる委員の皆様の思いを十分にくみ取り、地域住民、保護者が抱く本市教育への深い思いと願いを十分理解することはもとより、その思いに寄り添っていきながら、市立学校適正配置計画の策定やその後の適正配

置等の推進に向け尽力してまいり所存でございます。竹原市の将来と竹原市の子供たちの未来のために、決して怠らずに果敢に取り組んでいきたいとの決意を申し上げて御礼の御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○小原会長 ありがとうございました。それでは、議事（3）「その他」ですが、委員の皆様から何かございますか。ないようですので、前回事務局からありましたが、懇話会を締めくくるにあたり、委員の皆様から1～2分程度で一言ずつ御挨拶をいただきたいと思えます。

○委員 この度、一年間のタイトなスケジュールの中で、こういった形で非常に深い御議論に御一緒させていただいて、未来に向かって今後の展望が開けてきたことを大変素晴らしいこと、ありがたいことだと存じます。この答申の10ページの表の4にありますとおり、これまでの竹原市の取組はすでに子供たちに着実に将来の夢や目標あるいは地域や社会に対する展望をしっかりと育てておられるという中であって、今後竹原市らしい学校運営協議会を中核とする地域に根差した9年間の系統性のある教育、あるいは地域の教育力を生かした特色ある教育がさらに発展されることを心から祈念いたしております。どうもありがとうございました。

○ 委員 本日は教育長さんに答申をお渡しできたこと、感無量でございます。地域の生涯学習に携わる立場から、懇話会の中では、後ろ向きな意見も申し上げてきたんですけども、昨年、第1回の懇話会から今現在1年経ちまして、本当に少子化の波が想像をはるかに超えて大きな波となっていると実感しております。その中で学校の適正規模を考えまして、これから将来子供たちが適正規模の小中一貫校で、切磋琢磨しながら他者を思いやる中で学ぶことができる環境づくりをぜひ期待をしております。そして、先ほど教育長さんが言われました竹原版コミュニティ・スクールの充実を図っていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○委員

これから先、統合・再編は必ず必要となることを7回の懇話会で勉強いたしました。それまでに地域との関わりを十分に検討していかなければ、学校がなくなった地域・地区は、学校との関係が希薄になると思います。まとめの中に、統合・再編の説明会等の際には、地域住民の心に寄り添った丁寧な対応に配慮することも要望したいと書いております。そのことを私は切に希望しております。

○委員

本来であれば、人口とか子供たちの数が増えていけばこういった懇話会というものは必要なかったのかなと思います。学校が統廃合されるのがさみしいというマイナスな話ばかりのところもあったんですけど、今回の答申を出すことによって、前向きにプラスに考えて子供たちがより良い教育環境で竹原で生まれ育ってくれたらいいかなと思っております。一年間コロナ禍ではありましたが、無事に答申ができたことを本当にうれしく思っております。どうも一年間ありがとうございました。

○委員

一年間ありがとうございました。子供が少なくなっているとは思っていましたが、10年後、20年後にだんだん統廃合されていくというのをこの会でいろいろ勉強させていただきました。今の子供たちが親になっていく時代の中で、夢や目標を失わないように頑張っていってもらいたいなと思いました。ありがとうございました。

○委員

教育に携わる身として、この児童生徒の減少というのは本当に身近に感じるところがあり、危機感を感じる部分が非常に強かったです。ですから、この適正配置等に関わる話というのは避けて通れない内容であることは間違いないと思いますし、だからこそ、しっかりとこのことに目を向けて関わっていく必要があるということを、この会に参加させてもらう中で強く感じるところもありました。地域の方々のお声を聞く中で、やはり地域から子供の声が聞こえなくなっていくことはただ単に寂しさの問題ではなく、人の流れが変わり、そして地域の衰退につながっていくということを強く感じるところもありました。そういう中で、我々

教育に携わる者としては、しっかりと地域、保護者、子供たちの将来の夢や目標をかなえるためのより丁寧な指導で、本市のために頑張っていかななくてはならないということを深く感じながら、またこれから職務に向かっていきたいと思っております。ありがとうございました。

○委員

この度は、本懇話会に参加させていただき、皆様と一緒に竹原市の学校の未来について、考える機会をいただきました。保護者アンケートや学校訪問、この懇話会で皆さまのお話を伺うことなど、大変貴重な経験をさせていただきました。今後も竹原市の子供たちに変化の激しい時代を生きていくための資質・能力を身に付けさせていくこと、そして故郷を大切に思いながら多様性を受け入れ自分らしく生き生きと活躍できる人材を育てていくことに努めたいと思います。また、学校運営協議会制度の充実を図って参りたいと考えております。小原会長様、委員の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

○委員

私は、副市長という立場でもございますので、まず、委員の皆様には熱心に御議論等していただきまして、こうして答申という形で整理しまとめていただいたことに厚く御礼申し上げます。感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。私といたしましては、市内で今後とも一定の規模での児童生徒がいる環境の中で、子供たちが互いに刺激をし合い、あるいは切磋琢磨しながら、学力と共にコミュニケーション能力や主体性・自主性であったり、あるいは協調性であったり、そういった様々な力を培って、社会で生き抜く力が育まれる学校であっていただきたいと思っております。また、それを支えていただく地域の皆様の御理解、御支援をぜひ引き続きお願いできればと思ったところでございます。どうもありがとうございました。

○委員

一年間、大変ご苦労様でした。私は、北部地域のものですが、PTAからもう4年くらい離れていまして、ここまで少子化が進んでいるということに本当に驚きました。再編スケジュールの第1期は令和4年からのスタ

ートになると思いますが、保護者や地域住民の理解を得ながら、よく話を聞いてもらいながら早期に進めてほしいと私は思っています。アンケートにも北部の方では再編・統合を進めてほしいという意見が多かったので、やはり保護者の立場に沿って進めていってほしいと思います。一年間、どうもありがとうございました。

○委員

一年間ありがとうございました。限られた時間の中で、この適正配置はいろんな問題が絡んでいるので、私自身整理して発言するのにいろいろ苦労した場面もあります。しかしながら、委員の皆さんのいろんな意見を伺う中で、気付かされたことがたくさんありました。本当にありがとうございました。答申にも細かく書いてありますけれども、具体化のために私が期待するのは、やはり竹原市教育委員会の出す質の高い教育、特色ある学校運営、市が目指している教育環境を整備するとか地域を活性化していくとかそういうものとぜひとも連動させて進めて行っていただきたいという思いであります。その中で、竹原でぜひとも子育てしたいという人が増えていくことが本当に一番期待しているところです。先ほど答申に対して教育長さんから本当に力強いお言葉をいただいたので、そういう面では本当にありがたくうれしく思います。また小原会長さんにはいろんな議論をまとめていただきまして本当にありがとうございました。本当に皆さんありがとうございました。

○委員

一年間ありがとうございました。この度、学校適正配置懇話会の委員を受けた時にはどんな閉塞的な会議になるのだろうと自分の中で戦々恐々としたところもありましたが、皆様方、地域の立場であったり、保護者の立場であったり、教育関係者の立場であったりあらゆる立場のそれぞれ率直な話を聞かせていただく中で、感情だけの議論にとどまらず、また理想だけの議論にもとどまらず、それぞれの立場を尊重しながら、一つの答申という形になったことは大変すごいことだと改めて感じております。私自身、子育てに関する仕事にもついておりますので、小学校就学前に非認

知能力、やり抜く力であったり諦めない力であったり、そういったことの土台をしっかり作っていかうという思いを新たにさせていただきました。ありがとうございました。

○委員

小原会長始め、委員の皆様、一年間にわたり大変ご苦勞様でございました。社会情勢の変化とともに想像以上のスピードで児童生徒数が減少している中でございます。また、コロナ禍の中、一年間の議論を経て、本日無事に懇話会として答申ができたこと、感謝いたしております。自分が経験いたしました学校統廃合から義務教育学校設立までの過程においては、それぞれの学校の長い歴史を自分たちの手によって閉じてしまっているのかと自問しながら長きにわたる会議に参加していたことを思い出しておりました。近い将来、賀茂川中学校区におきまして忠海や吉名のような義務教育学校設立に向けた動きが本格化していくことと思われます。あくまでも主役である子供たちを中心に、子供たちがわくわくするような学校が設立されることを心から期待しております。何事においても全ての人を満足させることは困難かと思いますが、少人数ならではの竹原らしい教育をこれからも進めて行っていただきますようお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

○小原会長

最後に私から3点述べたいと思います。一つ目は今回のまとめに当たってなじみのない言葉を使いました。それは何かというと、「デザイン」と「ストーリー（物語）」という言葉です。こういう学校適正配置の問題は、どうしても重いテーマです。重いテーマだからこそ、左の脳で考えるだけではなくて、右の脳も使って感動や共感、子供たちを育てていくという喜びの未来を切り開いていけるような、そういう思考をしていかないといけないのではないかということで、このプランは一つの竹原市教育の未来を考えていくストーリーとして提言したいということと、そのことが未来を考えていくデザインになっていくといういわゆるデザイン思考の考え方というのを少し入れさせていただいたということが1点目の内容です。

それから2点目は、私が一番心に留めていたのは何かというと、地域が学校を支えるというのはよくあるんですが、もう今や学校が地域を支えるようにして行くことが求められていますけれども、その学校の児童生徒数が減少していく中で、どうやって地域の教育的な機能を、祭りをどうやって続けていくのかとか、仮にそこに物理的な建物としての学校がなくなっても、その中にソフト面の教育機能としての学校はあるんだという要素を何とか残していけないかというので、地域の教育機能として学校運営協議会の部会を設けてなんとかやっていくというのを考えていったのは、そういう理由です。そして、これがうまくいくことがまさに竹原教育と考えておりますので、そのところはかなり気を使って答申の中に入れさせていただきました。3点目は、委員の皆さん方へのお礼の言葉です。本当に1年間で、毎回毎回宿題が出て、回答を答えてくださいというふうにしながらか進めていきましたので、委員の皆様方も大変だったと思いますが、本当に皆さん心を一つにして、一方ではやっぱり母校の存続の問題があるから忸怩たる思いもありながら、でも未来を生きていく子供たちのために、あるいは孫世代のために何とかいい教育をとということで、この両方を満たすような形で発言されていた委員の先生方のこういう懇話会の話し合いというのは、これこそ本当に竹原の教育の成果と私自身は考えております。1年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

○小原会長

以上をもちまして、第7回竹原市立学校適正配置懇話会を閉会いたします。これをもちまして適正配置懇話会の全ての議事を終了いたします。委員の皆様におかれましては、1年間ありがとうございました。

令和4年2月4日 午後2時40分閉会